



「全日本女王」という称号

失つてしまつた

「全日本女王」という称号

**優勝したい、
という気持ちだつた**

石川は、平成28年度全日本選手権（2017年1月開催）の決勝を勝利で飾ることができなかつた。「やつてきた練習の方性は間違つていない。これからも練習をやりこみたい」。悔しい気持ちを抑えながら、決勝戦直後に話した表情を覚えている。

迎えた3月のライオンカップジャパントップ12。表情からは強さや気迫が滲み出していた。それはつい最近まで「女王」として活躍していた頃のままだつた。

「全日本選手権に敗れて約2カ月。色々なことに取り組みました。今日の優勝は、攻め、攻めてできた優勝。久々に『スカッ』としました」会心のプレーができたのだろう。笑顔の会見であつた。

恐らく特に何か特別な練習、準備をしたわけではない。とにかく必死で練習をして、全力で日々を過ごしてきた。その結果があるパフォーマンスにつながつたのだろう。

4月。アジア選手権が中国・無錫で行われた。石川は参加しなかつた。その大会で日本勢が躍動。全日本選手権を制した平野美宇（JOCエリートアカデミー・大原学園）が、中国3選手を連破し優勝。団体戦でも日本は銀メダルを獲得。「後輩たちが底

「苦しい展開でしたが、最初の2ゲームが、勝っても負けてもおかしくない展開での0対2。そんなに落ち込まなくともいいんじゃない、という話を2人でしていました。点数を気にせず、1点ずつ良いプレーをして、諦めずにプレーできたことで、逆転勝利できただと思います」

「お互いにシングルスではあまり得意でない。攻めて行くスタイル。このスタイルを確立しないといけない」

混合ダブルス世界チャンピオンとなつた石川。その「混合ダブルス」が、東京五輪で競技種目に採用されることが決ました。

「卓球人として、五輪の種目にメダルが増える、というのは嬉しいです。私たちが優勝したことなどが種目追加のアピールになつたら余計に嬉しいです」と笑顔で話した。

KASUMI
(全農)

情熱を持つて 信念と 揺るがない

ない相手。実際に試合してみて、ラリー戦もうまいし、打ってくるコースも厳しい。そして、競り合いになるけど、なかなかあと『1本』が取れない。という感じでプレーしていました。

ただダブルスは、2人でプレーします。調子が良い方がリードする、助けていく、というイメージ。私の調子も悪くなつたですし、吉村選手も尻上がりに調子を上げてくれました」

決勝は準決勝同様。ゲームカウント1対3からの劇的な挽回勝利。最後は、石川が自ら放ったスマッシュが決まり、優勝が決まる。緊張が解けたのか、大粒の涙を流した。

地道な努力の積み重ねが 「中国」との距離を縮める

女子シングルスは、2009年の横浜大会以来のベスト8入り。

「丁寧選手と試合。敗れはしましたが、これまでの対戦の中で一番良い内容で、手ごたえがありました。技術的に足りないところを感じることができて、悔しかつたです。

11回目の参加である。

「世界を相手にプレーするアスリート。常に進化が求められる。経験から学ぶことは多い。学びを忘れないことでさらに成長できる。そして、自分が信じてきた道を突き進んでいけば形になります」

石川佳純の活躍こそが、石川佳純自身を強くする。

石川は、平成28年度全日本選手権（2017年1月開催）の決勝を勝利で飾ることができなかつた。「やつてきた練習の方性は間違つていない。これからも練習をやりこみたい」。悔しい気持ちを抑えながら、決勝戦直後に話した表情を覚えている。

「平野選手の活躍は、刺激になつています」と石川のコメントが書かれた記事を読んだ。きっと石川は燃えていた…。

「世界選手権は」前回大会で準優勝。今回は自信というか、絶対に優勝したい、優勝しなきや絶対にダメという気持ちでした。ですから、シングルスと同じくらい混合ダブルスの練習をしました」

混合ダブルス準決勝。吉村真晴（名古屋大）イハツ（6月よりファースト）、石川組は方博・ゾルヤ（中国・ドイツペア）に、ゲームカウント1対3とリードを許す苦しい展開だった。

「苦しい展開でしたが、最初の2ゲームが、勝っても負けてもおかしくない展開での0対2。そんなに落ち込まなくともいいんじゃない、という話を2人でしていました。点数を気にせず、1点ずつ良いプレーをして、諦めずにプレーできたことで、逆転勝利できただと思います」

迎えた決勝。対戦相手はチャイニーズタイペイの陳建安・鄭怡靜。

「お互いにシングルスではあまり得意でない。攻めて行くスタイル。このスタイルを確立しないといけない」

混合ダブルス世界チャンピオンとなつた石川。その「混合ダブルス」が、東京五輪で競技種目に採用されることが決ました。

「卓球人として、五輪の種目にメダルが増える、というのは嬉しいです。私たちが優勝したことなどが種目追加のアピールになつたら余計に嬉しいです」と笑顔で話した。

石川は24歳にして世界選手権に今回で